

1. 略歴

- 1985年3月 東京大学文学部中国語中国文学専修課程卒業
- 1985年4月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻修士課程入学
- 1987年3月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻修士課程修了
- 1987年4月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻博士課程進学
- 1988年9月 中華人民共和国北京大学中国語言文学系留学（至1990年2月）
- 1990年3月 東京大学大学院人文科学研究科中国語学専攻博士課程退学
- 1990年4月 神奈川大学外国語学部専任講師
- 1993年4月 神奈川大学外国語学部助教授（至1995年3月）
- 1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
- 1998年3月 文部省在外研究員に採用され、中国広州市中山大学に於いて研修（至1998年12月）
- 2013年1月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

中国語学、中国古文字学

b 研究課題

(1) 上古中国語の文法研究

構文と文法範疇の相関の変容の諸相、及びそれに関与する様々なファクターの解明を目指している。

(2) 戦国秦漢出土文字資料の研究

戦国秦漢時代の出土文字資料の解読の他、言語がどのように文字化されたかという視点に基づき、地域毎の用字法の相違、秦による文字統一の実態や文字政策に関する探究を行っている。

c 概要と自己評価

研究課題(1)に関しては、上古の中国人が認識した世界をどのように言語化したのか、コーパスと残された文献の背後にはどのような世界が広がっているのかという新たな問題意識から研究を進めている。研究課題(2)に関しては、統一前後の出土資料における漢字の使用実態の解明を進めているが、近年は秦系や楚系の文献に見られる他国の文字影響に着目し、一筋縄ではいかぬ文字の歴史の複雑性に焦点を当てている。

d 主要業績

(1) 論文

大西克也、「釋「喪」「亡」」、『第二十八屆中國文字學國際學術研討會論文集』、2017.5

木村英樹、大西克也、松江崇、木津祐子、「中国語史における疑問詞の指示特性—(人)を解とする疑問詞を中心に」、『楊弼榮教授還曆記念論文集 中日言語研究論叢』、2017.7

大西克也、「浙江大学蔵竹簡『左伝』は研究資料たり得るか」、『汲古』、72、2017.12

(2) 学会発表

国際、大西克也、「論上古漢語代詞“之”和“其”的替代功能」、第九屆國際古漢語語法研討會、Humboldt-Universität zu Berlin、2016.7.29

国内、大西克也、「上古中国語における疑問詞の指示特性」、日本中国語学会第66回全国大会、立命館アジア太平洋大学、2016.11.12

国際、大西克也、「伝世文献から見た楚簡における「喪」と「亡」について」、国際シンポジウム「出土資料を通じた中国文献の再評価」、日本女子大学、2017.3.18

国際、大西克也、「説“見”——清濁別義的另一個解釋」、漢語史研究國際研討會(2017)、復旦大学、2017.9.16

国際、大西克也、「説“雨”和“雪”——氣象詞語在古漢語中的語法表現」、北京大學第一屆古典學國際學術研討會——中國古代語言、文學和文獻研究的古典學視野、北京大学、2017.10.19

(3) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、大西克也、研究代表者、「概念表現と実体表現から見た中国語文法史の展開」、2014～2017

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

特別講演、中央研究院語言學研究所、「上古漢語疑問代詞的指稱特點——以問人代詞為中心」、2017.2
セミナー、日比谷図書文化館、「漢字と秦の文字統一——最新の出土資料から見えてきたもの——」、2017.3
セミナー、漢文教育学会、「出土資料から見た秦の文字統一」、2017.7

(2) 学会

国内、東方学会、学術委員、2011～、日本中国学会、評議員、2013.4～、
書学書道史学会、学術諮問委員、2016.4～